



地域計画の策定状況について

神戸市では 2023 年度(令和5年度)より地域計画（農業経営基盤強化促進法）の策定を進めており、2025 年(令和7年)9月30日時点で北区内において43地区（46集落）が策定しました。

大沢町：全域

淡河町：全域

長尾町：上上津 下上津 下宅原 岡 豊浦

八多町：附物 屏風 深谷 下小名田 上小名田 ※柳谷（2026 年(令和8年)公告予定）

道場町：生野 川北 城谷 町部・中央

山田町：坂本 東下西 西下 中 下谷上西丸山の一部

有野町：結場の一部

地域計画を策定した地域では、一定の条件を満たす担い手への補助金メニューの拡充などのメリットがあります。また、地域計画を策定していることが採択要件となっている補助事業も出てきています。

地域計画の策定（市街化調整区域が対象）を希望する場合は、北農業振興センターまでご相談ください。なお、来庁の際は事前にご連絡いただきますようお願いします。

11 月農会長会では、地域計画策定済み集落に対して地域計画の見直し（ブラッシュアップ）について案内いたします。

地域計画について
(市 HP)



【問い合わせ先】 北農業振興センター 里づくりライン 電話 982-2810
メールアドレス kita-nougyoushinkou@city.kobe.lg.jp

狩猟のシーズンになりました

狩猟期間は 11 月 15 日から来年 2 月 15 日まで（ニホンジカ・イノシシに限り、兵庫県全域で 3 月 15 日まで）です。狩猟期間中はくくりわなや箱わなの設置がされています。わなには近寄らないようにしてください。

また、入山されるときは『目立つ服装』で事故防止にご協力いただきますようお願いします。

【問い合わせ先】 北農業振興センター 有害鳥獣ライン 電話 982-2811

お知らせ

有機フッ素化合物（PFAS）のコメへの影響について

有機フッ素化合物（PFAS）の国内農畜水産物への影響については、現在、農林水産省によって調査・研究がすすめられています。

このたび、農林水産省（プレスリリース）より PFAS を含む農業環境からコメ（玄米）への移行・蓄積に関して、ほとんど影響はないという試験研究結果が公表されましたので、お知らせします。

農業環境からコメ（玄米）への移行、蓄積に関する試験研究の結果

環境水の暫定目標値を超える PFOS 及び PFOA が検出されている河川から取水している水田において試験を実施したところ、玄米中の PFOS 及び PFOA 濃度は、定量下限値未満～20ng/kg であった。水田土壌中の PFOS 及び PFOA 濃度を 1 とした場合の玄米中の濃度は、PFOS で 0.005 以下、PFOA で 0.004 以下であり、土壌中の PFOS 及び PFOA は、ほとんど玄米に移行、蓄積しないことが報告されました。

※有機フッ素化合物（PFAS）とは（環境省ホームページより）

有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、その中でも、幅広い用途で使用されてきた PFOS 及び PFOA は、難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質により、国内で規制やリスク管理に関する取り組みが進められています。

【関係機関ホームページ】

農林水産省⇒



環境省 ⇒



神戸市 ⇒
(PFAS に関する
情報全般)



「こうべ再生リン」の安全性について

神戸市における資源循環の取組みにより、下水汚泥から抽出した「こうべ再生リン」は、こうべハーベスト肥料の原料として使用されています。

「こうべ再生リン」は、下水汚泥を堆肥化したものではなく、汚泥から安全にリンのみを抽出して生成しています。

そのため、PFAS は検出されず（定量下限値未満）、その安全性が確認されています

〈有機フッ素化合物（PFAS）含有量試験結果〉

試料採取日：2024 年 11 月 21 日

ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）：不検出（定量下限値未満）

ペルフルオロオクタン酸（PFOA）：不検出（定量下限値未満）

※定量下限値：0.5 $\mu\text{g}/\text{kg}$

神戸市ホームページ ⇒

今後、新たな研究結果等が公表されましたら、お知らせいたします。

